

特集 **3**

# 自転車を安全に使うには？

国民生活センター 商品テスト部

## 自転車を購入するときは お店選びから

自転車は、流通上の事情により一部未完成の状態で工場から出荷され、最終的な組み立ては販売店で実施することが多くなっています。このため、販売店を選ぶときは単に価格が安いというだけでなく、販売時の組み立てや点検整備などの作業が信頼できるかどうかが大切になります。販売店に自転車技師や自転車安全整備士といった専門資格を持った人がいると安心です。自転車安全整備店の表示がある販売店であれば自転車安全整備士がいるので、これを目安にするのもよいでしょう(図1)。



図1 自転車安全整備店の表示

近年では自転車も通信販売で購入できるようになりましたが、通信販売を利用して購入する場合も販売店に専門資格を持った人がいることを確認すると安心です。

通信販売されるものの中には、自転車の一部の部品が組み付けられないまま大きな段ボールに入れられて購入者宅まで送付されてくるケースもあります。このような場合、基本的には自分で部品を組み付けて完成させなくてはなりません。しかし、もし組み付けが不十分であったりすると、走行中に重要な部品が外れて大きな事故に発展する可能性もあります。自転車の組み立てや整備について十分な知識と経験を持ち合わせていない人は、このような販売方法によ

る購入は避けたほうが無難でしょう。

## 自転車の上手な選択

自転車は、いくつかのタイプに分類できます。主なタイプの特徴と用途は以下のとおりです。

### ・シティ車(写真1)

フロントバスケットや荷台を備えているものが多く、荷物を持ち運ぶ際にも使いやすくなっています。通勤、通学、買い物など日常の交通手段に使用されることが多いようです。



写真1 シティ車の一例

### ・コンパクト車(写真2)

シティ車に比べ車輪が小径であり、車体全体も小柄のものが多くなっています。また、フレームやハンドルに折りたたみ機構を備えて「折りたたみ自転車」と称しているものも多く、折りたたむことでさらに小さくすることができます。折りたたむと狭い場所に収納できるほか、自動車や電車で持ち運ぶ際に便利です。折りたたみ機構を備えたものをレジャー用に購入する人もいますが、折りたたむことなく日常の交通手段に使用することも少なくありません。



写真2 コンパクト車の一例

### • スポーツ車(写真3)

多段の変速機を備え、乗車姿勢は前傾となるものが多く、比較的速い速度で長距離を走行するのに向いています。ただし銘柄によって価格差が大きく、高価なものは本格的な競技に参加したり趣味のサイクリングのために使用されることが多く、廉価なものは日常の交通手段として使用されることが多いようです。



写真3 スポーツ車の一例

### • 電動アシスト自転車(写真4)

シティ車、コンパクト車、スポーツ車の各タイプとも、ペダルを漕ぐ力を電動で補助してくれる機種が販売されています。坂の多い地域を中心に普及が進んでいます。



写真4 電動アシスト自転車の一例

実際に自転車を選ぶときは、自分の使用目的、使用環境をよく考え、必要なタイプや装備を選択します。主な使用目的は何なのか、1回当たりどれくらいの距離を走るのか、坂はあるのか、雨の日も乗るのか、暗くなってからも乗る機会が多いのか、バッグなど荷物があるのか…などを勘案し、無理のない、安全に使用できるものを選びましょう。自転車選びに迷ったら、専門的な知識や資格を持った店員に予算、使用目的、使用環境を伝えてアドバイスを受けると良いでしょう。

また、自転車を選択するうえで品質を見分ける指標となるマーク制度がいくつかあります。いずれの制度も義務化されてはいませんが、マークが貼られているものは一定の品質が確認されているという目安になります。具体的には以下のようなものがあります。

#### • JISマーク(図2)

日本工業規格(JIS)には、製品の種類や寸法、品質・性能や安全性、それらを確認するための試験方法などが定められて

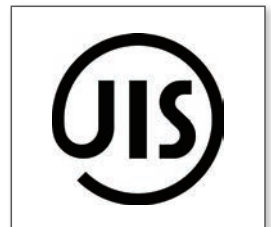


図2 JISマーク

おり、これに適合することの証明としてJISマークが表示されます。日本工業規格は最も根本的な規格で、国際的な規格との整合性を図っており、以降に示す他の国内規格の基になるなど重要な役割を担っていますが、現在販売されている自転車ではJISマークを表示しているものは多くありません。

#### • SGマーク(図3)

一般財団法人製品安全協会が定めたSG基準への適合の証明としてSGマークが表示されます。



図3 SGマーク

SGマーク付き製品に万が一欠陥があり、人身損害が発生して、欠陥と人身損害との間に因果関係があると認められる

場合には損害賠償措置が講じられます。

#### • BAA マーク等(図4)

一般社団法人自転車協会が定めた自転車業界の自主基準である自転車安全基準に適合した自転車にBAAが表示されます。また、スポーツ車に特化したSBAAマーク、スポーツ車のメンテナンスに係るSBAA PLUSの表示も行われています。

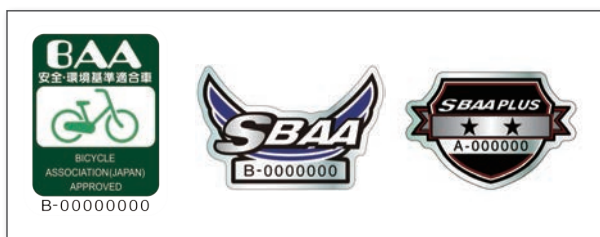


図4 BAA マーク、SBAA マーク、SBAA PLUS マーク

#### • TS マーク(図5)

自転車安全整備店に勤務する自転車安全整備士が点検整備した安全な普通自転車にTSマーク<sup>ちようふ</sup>を貼付します。TSマークには傷害保険と賠償責任保険が付いています(保険の有効期限は点検日から1年間)。



図5 TS マーク

## 自転車を使用する際に 気をつけること



自転車には、公道を走行するうえで必ず装備しなければならない部品があります。例えば後部反射器(リフレクタ)、日没後走行するのであれば前照灯(ライト)です。

自転車は原則として車道の左端を走行するように定められていますので、後部反射器は夜間に後方の自動車から認識されやすくするために重要なものです。このために、後部反射器は地面に対して垂直に、真後ろに向けて取り付ける必要がありますので、角度のずれがないか確認するとよいでしょう。また、赤い光が点灯・点滅するテールライトが販売されていますので、併用してもよいでしょう。

前照灯は夜間に前方の路面や障害物を確認するとともに、他の車両や人から認識されやすくするためにも重要なものです。ただし、光を真正面に向けると路面状況が確認しにくくなるほか、対向の他の車両や人がまぶしくなってしまうので、真正面よりやや下向きに調整します。

これらの部品は、競技を目的とした高価なスポーツ車などでは販売時に取り付けられていない場合もあります。公道を走行するうえで装備に疑問を感じたら、専門的な知識や資格を持った店員に確認するとよいでしょう。

また、自転車に乗る際は可能な限りヘルメットやグローブなどを身に着けましょう。シティ車では常用速度が時速16～24キロ程度、スポーツ車ではそれ以上の速度が出せます。下り坂など道路状況によっては時速40～50キロ以上出る場合もありますので、万一転倒した場合を考えると特に頭部の保護が重要となります。

自転車は多くの部品を組み立てた機械です。使用に伴い部品の緩みや損耗が発生します。これらを見逃すと部品の脱落や破損などに発展して転倒事故などの原因になるおそれがあります。このような事故を防ぐために、使用者自らによる日常点検と、自転車技師や自転車安全整備士など専門資格を持った人による定期点検が必要となります。これら点検の頻度や内容については自転車の取扱説明書に記載されていますので、一度は熟読するようにしましょう。